



頑張ろうとする君へ。松浦から、アールを。

## 松浦市内の企業紹介 Vol.9

問 地域経済活性化課 ☎内線 242



長年培った技術・信頼をもとに松浦からはばたく企業「ニッチツ」

### 株式会社ニッチツ 機械本部

創業年 昭和25年8月  
 所在 松浦市志佐町浦免37-1  
 従業員数 570人

株式会社ニッチツは、昨年8月に設立70年を迎えた東証二部上場企業です。東京に本社があり、長崎県松浦市、佐世保市、埼玉県、福島県にも事業所を設置しています。

松浦の事業所では、電力・製鉄などを中心とした各種プラント用の大型機械から、船舶用の大型機械・構造物、空気予熱機などの自社ブランド製品まで、幅広い製品の生産を行っています。クレーンや大型プレス機など大規模な生産設備を駆使し、開発から製造、現地工事まで、一貫した生産体制を実現しています。

また、すべての社員が能力を十分に発揮できるような雇用環境の整備を行い、女性の活躍に必要な環境整備も行っています。良質なワーク・ライフ・バランスの実現に努めている職場です。

#### 従業員へインタビュー

渡口 智大さん  
ともひろ  
 (製造一課製缶一係)



家から近く、現場で体を動かす仕事をしたいと思っていましたため、地元で工場がある職場を選びました。

今は、先輩方の指導を受けながら、溶接技術などの習得に励んでいます。作る製品によって、技術を使いわけると感じているため、早く仕事を覚えられるよう勉強中です。また、クレーンなどを使用するため資格や免許の取得にも挑戦したいです。

## わたしたちの郷土

～文化財は地域の宝～

### 『史跡 鷹島神崎遺跡』が国指定 10 周年を迎えます

弘安4(1281)年7月30日、九州北部に暴風雨が吹き荒れ、松浦市鷹島沖に集結した元軍14万人、軍船4,400隻が壊滅的な打撃を受け、多くの船が沈没しました。鎌倉幕府が衰えていく原因となった「蒙古襲来(元寇)」の一場面です。

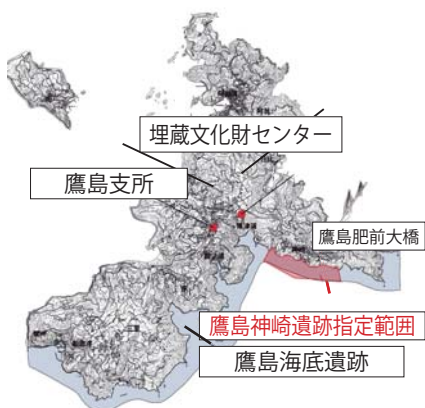
鷹島では、昭和55(1980)年から今日まで継続的に海底の発掘調査が行われ、陶磁器や武器・武具類など約4,000点が出土しています。平成23(2011)年には水深23mの海底から元軍の沈没船が発見されました。

翌平成24(2012)年3月27日、これまでの調査・研究の成果から鷹島海底遺跡の一部である鷹島南岸東部の神崎港沖海域約38万4千㎡が「鷹島神崎遺跡」として、水中遺跡では我が国で初めて国史跡に指定されました。

令和4年3月に史跡指定を受けて10年目を迎えます。水中遺跡として価値づけされた遺跡は、「鷹島神崎遺跡」が我が国で最初です。この国の史跡指定を契機に、国内の水中遺跡保護に向け、本格的な検討が始まりました。



▲出土遺物



▲鷹島海底遺跡と国史跡 鷹島神崎遺跡指定範囲

問合せ先 文化財課文化財係 ☎内線 356

## 市役所からのお知らせ

### 就学援助制度

問 各学校または教育委員会  
教育総務課 内線348

福島分室 0955・47・3111  
鷹島分室 0955・48・3111

市内に在住し、市内の小・中学校に通うお子さんのいる世帯で、経済的な理由により、義務教育に必要な学用品費・給食費などの支払いにお困りのご家庭に対して、その費用を援助する制度があります。

来年度の援助を希望される人は、各学校と教育委員会に申請書類を準備していただきますので、お問合わせください。

なお、引き続き援助を希望される人も申請手続きが必要です。

※令和4年4月に松浦市立

小・中学校に入学予定の

お子さまの保護者で就学

援助の要件に該当し、

申請後認定された人に

新入学用品費を入学前

(3月)に支給いたします。

【申請期限】

2月4日(金)

### 資源物回収活動奨励金 申請期限のお知らせ

問 市民生活課生活環境係  
内線141

令和3年度資源物回収活動奨励金の申請は、1月20日(木)までです。

令和3年1月から12月までに回収した資源物(新聞紙、雑誌、段ボール)について奨励金を申請される場合は、右記期限までにお願ひします。

期限を過ぎて申請された場合は、松浦地域振興券の対象となる優良団体であっても、対象外となりますのでご注意ください。

また市では、資源物の再利用化を促進するために、雑がみ回収事業を行っています。

※雑がみの対象となるものの詳細については、市報10月号またはホームページに掲載しています。

## 緊急事態に備えて

長崎県原子力防災訓練が12月4日、本市を含む県北地域を中心に実施されました。

この訓練は、九州電力(株)玄海原子力発電所の事故を想定し、緊急時における通信連絡体制の確立や緊急時モニタリング活動など、災害対策の習熟と防災関係機関相互における協力体制の強化を図るとともに、住民の原子力防災に対する正しい理解を促すため、毎年実施されています。

鷹島町の参加者は住民避難訓練後、原子力災害時の対応について内閣府・原子力防災担当者の講話、原子力災害医療について動画を用いた説明を受け、初めての試みとして鷹島保育園の協力のもと、迅速な避難に繋げるため園児を保護者に引き渡す訓練を実施。同園の保育士は、訪れた保護者の氏名を聞き取り、園児の引き渡しカード(登録情報)を用いて本人確認を行うなど、災害時の対応を点検しました。また、鷹島町以外の参加者は放射線防護施設への屋内退避訓練を行いました。

このような取り組みを重ねていくことで、緊急時の情報伝達や避難手段などの改善を図り、万一の事態が起きた場合に的確な対応がとれるよう体制整備を行っていきます。



▲対策本部会議の様子



▲鷹島保育園での訓練



▲住民避難訓練